

■ご挨拶

次世代を切り拓く技術で 世界に先駆ける低炭素社会を！



日本風力発電協会 理事 **松浦 一郎**
三菱重工業(株) エネルギー環境ドメイン 再生エネルギー事業部長

今年度、引き続き理事を務めさせていただき
ます三菱重工業(株)の松浦です。宜しくお願ひ致
します。

去る7月5日 世界遺産委員会が、『明治日
本の産業革命遺産』を世界遺産に登録決定！！
というニュースは、皆さんの記憶にも新しいこ
とと思います。

ものつくりを生業とする我々にとって、そし
てまた、私共の長崎工場内にある4つの施設を
含めた8エリア23施設が、世界遺産に登録さ
れた、ということは、とても嬉しいニュースで
す。

今回の対象となる8エリア23の施設は、離
れたところにありますが、これらに横串を通し
たのは、短い期間に急速な産業の発展を遂げた、
というテーマです。

この短い期間に急速な発展を遂げた、とい
うことは、見方を変えると、従来のやり方や考
え方、更には、価値観が、短期間に急速に変わ
った時代だった、ということになります。つま
り現存している施設・設備もさることながら、
その時期の急速な価値観の変化に対応しながら、
新しい技術を導入、吸収し、確立していった名
もあまり知られていない多くの企画者、技術者
達が居て、随所で持てる力を最大限に発揮した、
ということが、想像できます。

見ず知らずながら、何となく風貌が浮かんで
きそうなそれらの人達に、心から敬意を表しな
がら、今回の登録を喜びたいと、思います。

話は変わりますが、今年、世界で初めての
大型油圧ドライブ式7MW風車が、発電を始めま
した。開発着手から4年間という短い期間で完
成に漕ぎつけたこの風車、まだ、プロトタイプで

デリケートな面もありますが、2台目が福島
の復興シンボルの一つとして世界最大級の浮
体基礎の上に据え付けられました。

いよいよ、これから福島沖に曳航係留され、
実証試験に入っていきます。7MWへの大型化と、
大型油圧ドライブという新技術の導入・開発、
そこには、未知の知見が溢れており、工場出荷
までは勿論、これからも思い通りに運ばぬ点、
苦難、困難も想定されます。

それに一つ一つ向き合い解決していくのが
開発の道のりであり、技術開発の難しさと共に、
将来に繋がる新技術を確立することが出来る
喜びでもあります。

世界遺産のニュースを前にその時代を支え
たであろう先人達に思いを馳せながら、これ
からの時代の先駆けとなる技術を多くの関係
者の力を結集して築き上げ、確立し、達成の喜
びを分かち合いたいと思っています。

事業面でも、商用として成立するまでに至
っていない日本の洋上風車ですが、この世界
最大の浮体式洋上風車の実証試験が契機とな
り、これからの基盤整備の呼び水、変革、ブ
レークに向けたひとつの起点となって欲しい
し、そのような働きかけていきたい、と思っ
ています。

そんな将来に向けた取組みと、同様にこれ
までに納めた数多くの陸上風車の信頼性を長
期に亘って確保しながら、更に少しでも稼働
率、設備利用率が上がる様に、地道な努力を
続けていくことも風力業界に於ける我々の重
要な使命と考えております。

そんな視点で、今年も1年間、理事を務め
て参りますので、今後とも皆様のご指導、御
協力を宜しく願ひ致します。